

【Khaṇḍana bhava-bandhana】解説⑤

バーンジャーナ ドウッカ ガーンジャーナ カルナー ガーナ カールマ カトー

5. Bhañjana duḥkha gañjana karuṇā-ghana karma kaṭhor

切る 消える 苦しみ悲しみ 良くない 慈悲・恩寵 凝縮した 働き 沢山～している

プラーナールパナ ジャガタ タラナ クリントナ カリードール

Prāṇārpaṇa jagata-tāraṇa (×2) kṛiṇtana kali-ḍor

命を捧げる 宇宙 苦しみから救う、守る 切る カリュガ 結び目

<賛歌集の訳>

あなたの生涯は人類の救いのために与えられた愛の捧げもの。
カーリーの、暗い世の束縛を砕く力。
山のような悲しみを砕いて下さるお方。恵みに満ちたお方。偉大なる働き手よ。

<内容>

あなたは凝縮した深い慈悲をもって、いつでも私たちにたくさん霊的なサポートをしてくださっている。あなたの恩寵で、この世のあらゆる苦しみ悲しみ（3種類の苦しみ）が無くなります。
あなたは、この宇宙のあらゆる苦しみや災難から私たちを守り、カリユガの悪い影響を断ち切ってください。

<語句解説>

Bhañjana : 切る、消える、取り除く

duḥkha※1 : 苦しみ、悲しみ

gañjana : 良い物ではない duḥkha は消える

karuṇā※2 : 慈悲・恵

ghana : 凝縮された

karma : 働き

kaṭhor : ※3 たくさん (karma kaṭhor たくさん働く)

Prāṇārpaṇa : Prāṇā 自分の命 (生命エネルギー) ブラフマンという意味もあるがこの場合はタクールの命 + ārpaṇa 捧げる

jagata : ※4 : 宇宙 Jagat ジャガット「全ての人、ものがいつも動いている、止まらない」 = Gam (ガム「行く」という動詞) + Kwip (キップ「ずっと続く」という接尾辞)

tāraṇa : ※5 : 苦しみから救う (災難に遭わないように守る。たとえ災難や苦難

に遭っても救う)

kriṇtana : 切る

kali : ※6 : 4 ユガの[カリユガ]

ḍor : 結び目

<注釈>

※1 duḥkha : ドウッカと発音するが、歌の時はドウカになる。

◆サンスクリット語の2つのペアになる言葉の中に「スカ・ドウッカ」という言葉がある。「スカ」は喜び楽しみ、「ドウッカ」は悲しみ苦しみ。

スカを求めるならドウッカもペアなので必ずやって来る。

ベンガル語の面白い詩がある。

「シュカ・ドウカ・ドウイ・バイ シュケロ・ラギア

ジェカレ・ピリティ・ドウカ・ジャエ・タタイ」

シュカとドウカは双子。もしあなたが双子のうちのどちらか一人に会いたいとしたら、必ずもう一人もやってくる。なぜなら双子はいつも一緒だから。

もう一方に会いたくなくても必ず会ってしまうという意味。

コインの表と裏と同じ。もしあなたが表だけ欲しいと思っても、必ず裏面もあるので避けることができない。

3つの苦しみ

Duḥkha ドウッカ : ヒンズー教には3つの苦しみがある。

①アッディヤートミカ・ドウッカ (Adhyatmika duḥkha) :

自分の体や心の苦しみ、ストレス。

②アッディーダイヴィカ・ドウッカ (Adhy-Daivika duḥkha) :

猛暑、極寒、地震、津波等の自然災害から受ける苦しみ。

デーヴァは神様。この場合自然の神様。

③アッディバウティカ・ドウッカ (Adhy-Bhautika duḥkha) :

他の生き物から受ける苦しみ。友人や親せき家族。

Bhañjana duḥkha gañjana : この3種類の苦しみ悲しみが、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵で無くなる。

シュリー・ラーマクリシュナの信者は、シュリー・ラーマクリシュナが神のシンボルなのでシュリー・ラーマクリシュナの恩寵で無くなる。

お釈迦様の信者のためにはお釈迦様の恩寵で。

イエスの信者のためにはイエスの恩寵で。
これを覚えておかないと考えが狭くなる。

しかし、神様への愛がもっと深くなるとこの考えもなくなる。その時「愛のためだけの愛」となり、一番高い信者は利己的な事を全然考えず、「自分の苦しみを取り除いてください」という祈りも無くなる。
福音の中に「シュッダーバクティ (Pure love)」という言葉があるが、とても純粋な愛の中に、特別な祈りはなくなる。

*参考

Om Shanti Shanti Shanti も同様に3つの平安を祈る。

- ①Adhyatmika Shanti : 自分自身に対して平安になる。
- ②Adhy-Daivika Shanti : 自然災害など周りの環境に対して平安になる。
- ③Adhy-Bhautika Shanti : 自分の周りの他の生き物に対して平安になる。

※2.karuṇā 慈悲について。

我々の慈悲は好きな人にだけ、それも自分を犠牲にしてまでは人に慈悲をかける。しかしシュリー・ラーマクリシュナはご自分を犠牲にしてまでも、全ての人に平等に、そして常にお慈悲を与えていた。

また、人によって慈悲の種類も様々である。

- ・ある医者には貧乏な人からお金をもらわず診療する。
- ・ホームレスの方々に服や食べ物をあげる。
- ・お金のある人はお金でサポートする。

例えば、福音に出てくるヴィッディヤ・シャーゴールは困った人にお金を施していた。

しかしその種類のサポートは、その瞬間は良いが長くは続かない。

しかし知識のレベルでのサポートは長く続く。

例えば、昔インドの先生はお金をとらずに教えていた。このように知識のレベルでのお世話（サポート）は無くならないので長く続き、死ぬまで持続する。

3段階のお世話

お世話には3段階ある。

- ①「物でのお世話」
- ②「知識のお世話」：物より高いレベルでのお世話
- ③「霊的なお世話」：一番高いレベルのお世話
霊的なお世話は死んで生まれ変わっても続く。

霊的なお世話をすると悟りが得られ、悟ると解脱できる。

それが一番良い結果を生むお世話。

その *karuṇā* (慈悲) はいつも霊的に困った人たちへの「霊的なレベルでの慈悲」。シュリー・ラーマクリシュナに会いに来られる人はほとんど、お金や学問の問題ではなく、苦しみや悲しみなど心の問題を抱える人が多かった。だから、それをどのように取り除くか教えるためにたくさんお慈悲を垂れていらした。

※3. シュリー・ラーマクリシュナの *karma kṛthor* について

スワミー・ヴィヴェーカーナンダがどうして *karma kṛthor* と表現したのか？シュリー・ラーマクリシュナは主婦でもビジネスマンでもなかったのに、何をそんなにたくさん働いていたのか？

あるお坊さんがスワミー・シヴァーナンダジに「なぜこの曲ではシュリー・ラーマクリシュナは *karma kṛthor* (たくさん働く) と歌うのですか？」と質問した。

例えば普通の人の場合、他の人へのサポートは時間がある時、また決まった時間だけ行う。しかしシュリー・ラーマクリシュナのサポートは、どんな人に対しても、朝から夜まで、休む時間も、たとえ疲れていても、突然お客様が見えるとすぐ話を始めるという無休のサポート。

また、癌を患って食事も全くとれず血を出していた時でさえも、誰も訪ねてこなかった日には「今日は誰も来なかった」ととても悲しんでおられた。ご自分の体の事を全然考えずに…。

ドッキネッショルに住んでおられた頃は、まだシュリー・ラーマクリシュナの所に来るお客様は少なかったが、だんだん人気が出てきて遠方からもお客様がやってくるようになった。しかしお客様がいなかった時にも、サマーディに入っていなかった普通の意識の時でさえも全く休んでいなかった。庭を掃除したりと、どんな短い時間でも必ず働いていた。

シュリー・ラーマクリシュナの大きなレッスンは「朝起きてから寝るまで、1秒も暇が無い方がいい」。

勉強の時間、ヨガの時間、瞑想の時間、仕事の時間とスケジュールをたてて、何も予定がない自由な時間を無くす方が良い。なぜなら、人は暇ができるとたくさん否定的な想像をしてしまう傾向があるからだ。

うつ病の人の原因の一つには、何もしていない事、自由な時間が一杯ある事が多い。

働きすぎも良くない。

目的もなく、意味もない仕事も良くない。

時間が一杯あって仕事は何もないのも良くない。

することが何もないという時間が良くないのだ。

シュリー・ラーマクリシュナは朝から晩まで何もしていない時間が全くなく、ほとんどの時間を人々への霊的なサポートにあてていた。それがシュリー・ラーマクリシュナの karma káthor。

※4. jagata : 宇宙

Jagat ジャガット= Gam (ガム「行く」という動詞) + Kwip (キップ「ずっと続く」という接尾辞) で構成される。

時間、人、ものなど、いつも動いていて、決して止まらないもの。

これらは悟るまでいつも変化し続けている。

例えば、人は「生まれ、成長し、年老いて死ぬ」といったように日々衰退は見えなくても必ず変化している。

死後も人は天国と地獄に行き、また輪廻を繰り返し、止まることができない。

※5. tārāṇa

シュリー・ラーマクリシュナやイエス様、お釈迦さまは、自分たちの信者のためにだけ現れたのではない。すべての国、すべての人々のために教えをといた。

その教えは時間と空間に限定されていない普遍的なもの。

・ある時シュリー・ラーマクリシュナがサマーディの後に意識が戻られた時、「私は白い肌の人たちがいる場所に行ったが、その人たちの言葉はわからなかった。でもその人たちはとても信仰深かった。後にその人たちも私の信者になる。」とビジョンを語った。シヴァーナンドジにも、「その中には白い肌の人ばかりではなく、黄色い肌の人たちもいた。でも私が生きている間はその人たちに会うことはできないが、お前たちは会えるよ」と語ったという。

・ホーリーマザーのところにイギリス人がやってきた時、「あなたたちはイギリス人を嫌いますが、その人も私の子供です」と言っておられた。

われわれは自分の好みで人の好き嫌いを決めてしまいますが、マザーやタクルはそうではなく、普遍的な見方をしておられた。

※6. 4つのユガで、3グナの性質をもった人たちの数が違う

(数字はわかりやすくしただけの表記)

Satya Yuga サッティヤ・ユガ：人々はサットワの人々ばかり→ほぼ 100%

Treta Yuga トレタ・ユガ：サットワ→20%、ラジャス→50%、タマス→30%

Dvāpara Yuga ドワパラ・ユガ：サットワ→10%、ラジャス→30%、タマス→60%

Kali Yuga カリ・ユガ：タマス→ほぼ 100%

聖典には、Kali (悪魔カリの事でカーリー女神ではない) は、ギャンブルの場所 (パチンコ店など)、酒場、売春宿などに住んでおり、その場所が好きな人たちはタマスになると書かれている。

それぞれの時代に現れた神の化身は

Satya Yuga の神の化身は… (マハラジお忘れ)

Treta Yuga の神の化身はラームチャンドラ

Dvāpara Yuga の神の化身はクリシュナ

Kali Yuga の神の化身はチャイタンニヤ、ラーマクリシュナ、お釈迦さま、イエス様。

カリユガの時代は悪がはびこり、ほかのユガより神の化身の働きは大変。

ヴィヴェーカーナンダは、ラーマクリシュナが化身された時からカリユガは終わり、サッティア・ユガにサイクルが動いていると言われた。

昔はそれほど犯罪も無かったし信仰深い人が多かったが、霊的な人は少なかった。現代は犯罪も多いが、信仰よりも霊的なものを求める人 (サットワ的な人) も増えてきている。ユガの移り変わりははっきりとはわからないが、サッティア・ユガに入ってきている印は、サットワ的な人が増えてきている事でわかる。カリ・ユガでは、ラジャス (野心、欲望、執着)、タマス (暴力) などが一杯だった。ヴィヴェーカーナンダ曰く、カリユガの影響はシュリー・ラーマクリシュナがマクロレベルで取り除いたが、そのインパクトはマイクロレベルではすぐにはわからない (個人的に理解は難しい)。